みなさんとプロジェクト

～体験型ツーリズムで紡ぐ蚕都復興への道～

愛知学院大学法学部　小林明夫ゼミナール
代表者：亀洞菜月
発表者・参加者：　大島晴留人、岡野耕大、梶野歩夢、金田瑞葵、亀洞菜月、瓦井拓海、鈴木もえ、鈴木勇登、田中利依、辻朝日、寺島優、長屋杏実、中山隼輔、成田彩乃、二宮百可、野村將馬、長谷川葉流、前多晴、山下栞怜、吉田光宏

梗概

後継者不足や原材料の確保難、生活様式や消費行動の変化といった様々な要因から伝統的工芸品産業は、衰退の一途を辿っている。伝統的工芸品（「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき経済産業大臣が指定した工芸品）の生産額は 1983 年には 5410 億円に上ったが、2020 年には 870 億円と最盛期の 6 分の 1 以下に落ち込んでしまっている。最近では新型コロナウイルス感染拡大による行動制限で、観光客が減少したことも生産額に影響した。伝統的工芸品産業の従業者は、1979 年には約 28.8 万人いたが、2020 年には約 5.4 万人と激減している。このことから、将来的に伝統工芸が途絶えてしまうことが危惧される。１度途絶えてしまったものを復活させることは難しい。

また、上田市の総人口は 2000 年においては 166,568 人であったが、2020 年には 154,055 人となっており、20 年間で約 7.5％減少している。推計では、2035 年には 128,382 人にまで減少するとされている。さらに、上田市の高齢化率は全国平均より 3％高い 31％であった。人口減少と高齢化が加速すると、生活関連サービス（医療・小売・飲食）の縮小や税収の減少による行政サービス水準の低下などを引き起こすおそれがある。

このような現状を改善するために、私たちは「みなさんとプロジェクト」を提案する。「みなさんとプロジェクト」とは、上田市の複数の魅力を体験できる企画を開催するプロジェクトである。このネーミングは、上田市でかつて蚕糸業が栄えていて「蚕都」と呼ばれていたことと市民の皆さんと協力して行うプロジェクトであることをかけたものである。具体的には、宿泊付き体験型ツーリズムと小中学生向けのワークショップと廃棄野菜で染色した上田紬の製作物の販売を市民の皆さんの力をお借りして行う。このプロジェクトのターゲットを観光客だけでなく市民も対象にすることで、交流人口の増加に加え、人口流出を抑制することもできる。また、「みなさんとプロジェクト」を通して、多くの人に上田紬を知ってもらうことで、将来的な蚕糸業の復興に繋げることができると考える。

第１章　はじめに

私たちは、今回のテーマである「人口減少時代の持続可能なまちづくり」を目指すに当たって、交流人口の増加・人口流出の抑制に焦点を当てた。上田市の人口減少と伝統産業の衰退という課題を解決することができ、伝統産業である蚕糸業を復興させる道に繋げる政策提言を行う。第２章では、伝統産業の衰退による影響と上田市についての現状分析を行う。第３章では、基本的な考え方としてどのように交流人口の増加と人口流出の抑制をしていくのかを述べる。第４章では、基本的な考え方に基づく具体的な政策提言として、「みなさんとプロジェクト」の実施について提言するとともに、参考となる取組として、株式会社南信州観光公社の例を紹介する。そして、今回の提案によって得られるメリットと課題について検討する。まとめの第５章では、今回の提言からみた今後の展望について述べる。

第２章　現状分析

第１節　伝統産業の衰退による影響

日本全体の伝統的工芸品産業の生産額は 1974 年の 3840 億円から 1983 年には 5410 億円に上ったが、1990 年に 5080 億円を記録した後は減少が続き[1]、2016 年度に 1000 億円を下回って以降漸減傾向で、2020 年度には 870 億円にまで落ち込んでしまっている。新型コロナウイルスの影響をみると、(一財)伝統的工芸品産業振興協会が産地組合に対して行ったアンケート調査では、流行前と比較し、売上額が減少したとの回答が約８割であった[2]。

伝統的工芸品産業の従業者は、1979 年には約 28.8 万人いたが、1998 年には約 11.5 万人[3]、2020 年には約 5.4 万人と激減している[4]。さらに経済産業大臣指定の伝統的工芸品の製造に従事されている技術者のなかから、高度の技術・技法を保持する方として認定された「伝統工芸士」は、職人の高齢化に伴い減少傾向で 2019 年には 4000 人を切っている[5]。

このことから、伝統的産業の産地が直面している主な課題として、「需要の減少」、「後継者の不足」に加えて「原材料・用具等の不足」の３つがあげられる。これらの課題解決に向けた様々な取り組みが行われているが、従事希望者に製造技術を身に付けさせても、産地の製造事業者に経済的余力がないため雇用に繋がらず、原材料・用具等を調達しようとしても、需要の減少に伴う発注量の減少による供給側の事業の先細り等により、困難な状況となっている。総合的な解決が図られないと伝統的工芸品が製造できず、継承ができなくなるおそれもある[6]。また、伝統的工芸品の指定産地はほとんどが個人事業者や中小・零

---

[1] （一社）日本工芸産地協会「地域サプライチェーンと小規模事業者の関係 ～工芸業界の場合～」（中小企業政策審議会小規模企業基本政策小委員会(第 14 回)2018 年 10 月 12 日提出資料）２頁。

[2] 経済産業省「経済産業省説明資料」（文化審議会文化財分科会企画調査会（第９回）2022 年７月 27 日提出資料）　４頁以下。

[3] （一社）日本工芸産地協会・前掲（注）１　２頁参照。

[4] 経済産業省・前掲（注）２　４頁参照。

[5] 経済産業省・前掲（注）２　４頁参照。

[6] 総務省「伝統工芸の地域資源としての活用に関する実態調査結果報告書」（2022 年６月）　18 頁以下。

細企業により支えられているため、生活様式の変化や需要の低迷等に直面し、伝統的技術・技法の伝承が危機的状況にある。

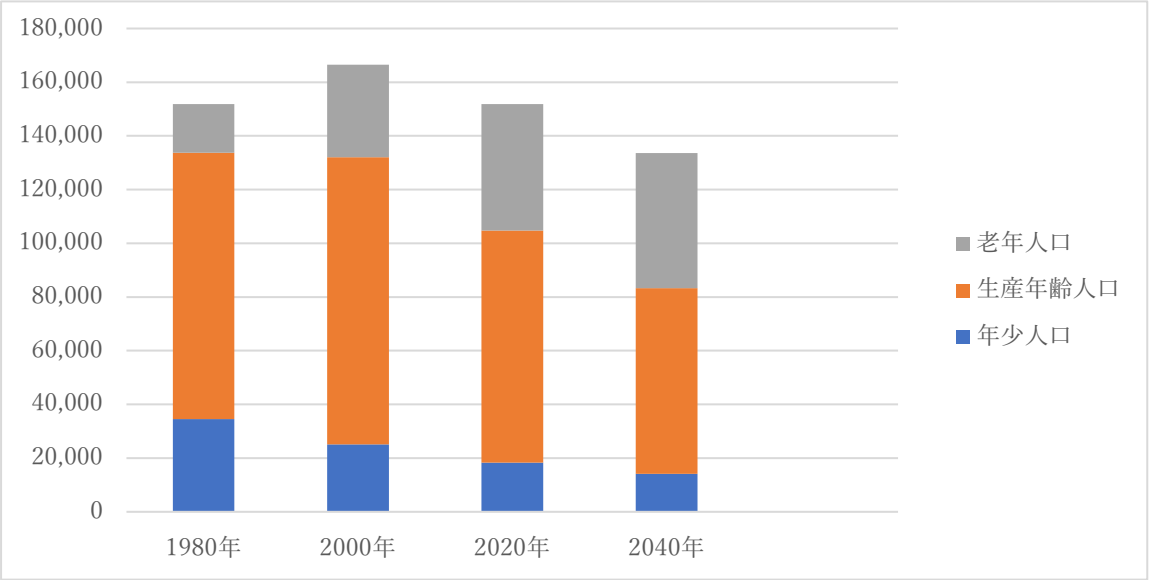
そこで我が国は、伝統的工芸品産業の振興を目的として、組合や団体が実施する事業の一部を国が補助する取り組みを行っている。伝統工芸品の原材料確保や、後継者の育成のほか、観光など他分野との連携や他産地との連携、国内外の大消費地等での需要開拓などに対して支援を行っているが[7]、伝統工芸品産業を維持するには限界がある。

第 2 節　上田市の現状

次に、上田市がどんな現状に置かれているのかについて、人口と観光という２つの観点からみていきたい。

上田市の総人口は、2020 年で 154,055 人となっており、2000 年の 166,568 人と比較すると約 7.5%減少している[8]。また、2040 年には 133,600 人にまで減少すると推計されている[9]。さらに、年齢別の人口が大きく変化してきている。年少人口（0～15 歳未満）は、1980 年には 34,492 人であったが、2020 年には 18,338 人にまで減少している一方で、老年人口（65 歳以上）は、18,062 人から 47,130 人へと増加している。その結果、1980 年には 11.9%であった高齢化率は、31.0%まで上昇した[10]（図 1 参照）。上田市の人口減少と少子高齢化が顕著に現れている。

（図 1）上田市の総人口及び年齢別人口の推移



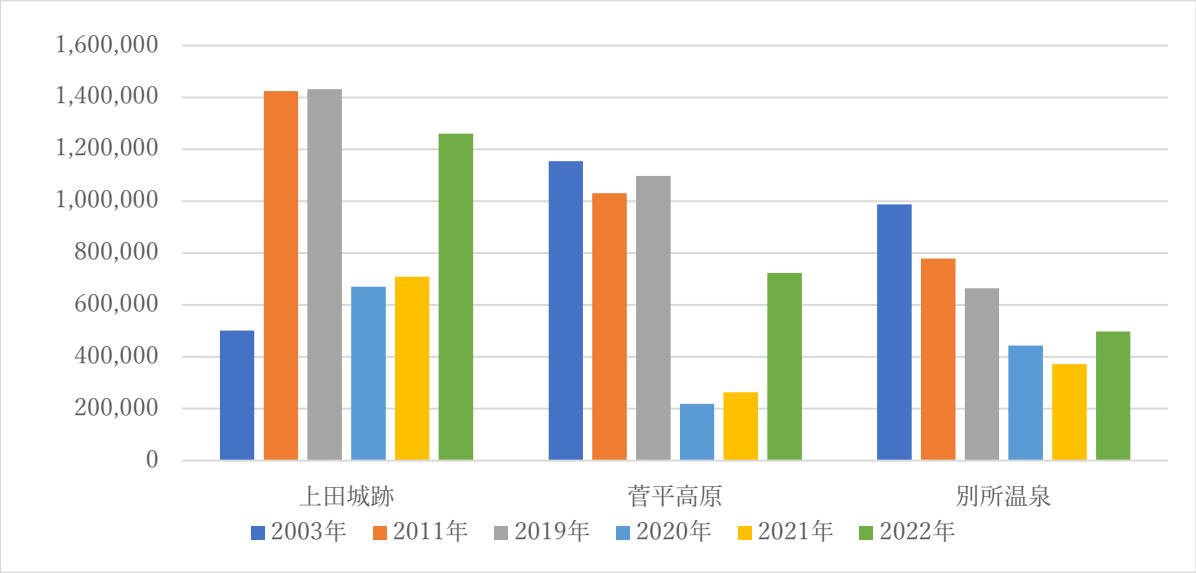
（出典：「令和 2 年上田市の人口（令和 2 年国勢調査結果報告書）」及び「第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画（令和３年度～７年度）」より作成）

---

[7]経済産業省・前掲（注）2　6 頁参照。
[8]上田市政策企画部広報シティプロモーション課「令和 2 年上田市の人口（令和 2 年国勢調査結果報告書）」　6 頁。
[9]上田市政策企画部政策企画課「第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画（令和３年度～７年度）」　18 頁。
[10]上田市政策企画部広報シティプロモーション課・前掲（注）8　9 頁参照。

上田市には、上田城跡や菅平高原、別所温泉といった観光地がある。2003 年以降、上田城跡の延利用者数は 2016 年までは増加傾向にあったが、同年の 348 万人を境に減少傾向にある。菅平高原と別所温泉の各々の延利用者数は、2019 年頃までは大きな増減はほとんどみられないが、新型コロナウイルスが蔓延した 2020 年と 2021 年に大きく減少した。2022 年においては、これら 3 つの観光地の延利用者数はいずれも増加したが、2010 年代と比較すると増加の傾向があるとはいえない状況にある[11]（図 2 参照）。また、名産品である上田紬は色や柄、染め方の厳格な規制がなく生産者の数だけ個性があるという自由な気風が特徴であり、現在は、「信州紬」として国の伝統工芸品に指定されている。しかし、我が国の着物市場は昭和 50 年代の 1 兆 8000 億円から 3000 億円前後まで減少している。それに伴い、上田紬を生産する工房は減少し、現在はわずか 5 つの工房で生産されている状況である。各工房で着物以外にポーチや財布、イヤリングなど現代の生活様式に合わせた工夫を行っているが、上田紬の認知度は依然として高いとはいえない。

（図 2）上田市の主な観光地の延利用者数の推移



（出典：長野県 「観光地利用者数統計調査結果」より作成）

第 3 章　基本的な考え方

第 1 章と第 2 章で述べたように、上田市は人口の減少と伝統産業の衰退という課題を抱えた現状にある。しかし、日本全体の人口が減少傾向にある中で、定住人口の増加は容易ではなく、また、現実的ではない。そこで私たちが着目したのは、上田市の交通アクセスの良さである。この地理的特性を活用し、まず上田市を訪れる人々、すなわち交流人口の増加を目指す。さらに、市民の人口流出の抑制も目指すこととした。

[11]長野県「観光地利用者数統計調査結果」
（https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/toukei/riyousya.html）（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）

交流人口の増加と流出抑制を目指すうえでは、3つの柱が考えられる。

一つ目は、観光客を増加させることである。総需要の減少や消費の成熟化が進む現代において、観光客を増加させるには、製品を購入又は使用することによって得られる機能的な価値の提供だけでなく、情緒的な価値を提供することが求められる[12]。そこで、上田紬の染色・機織り体験ができる体験型ツーリズムを開催することで、地域外の顧客を誘致し、上田紬に対する知名度を上げることができると考える。

二つ目は、上田紬に対する需要を高め、蚕都の復興への道を開拓することである。絹糸を用いた上田紬は着物などを着る機会が減少したことで、需要も低下している。したがって、上田紬の新たな可能性を見出す必要がある。そこで、上田紬の染色・機織り体験などの取組みにより、積極的にPRを行って商品のブランド力を高め、将来的な蚕糸業の復興に寄与することができると考える。

三つ目は、市民に上田市の魅力を伝えることである。市民にも上田市の魅力を感じてもらう企画を実施したうえで、伝統産業の振興によってシビックプライドを醸成し、人口流出をも防ぐことができると考える。

これらを実施することで、上田市の抱える課題が解決できると考える。

第４章 具体的な政策提言

第１節 提案

（1）「みなさんとプロジェクト」

私たちは、かつて上田市が、蚕糸業が栄えていて「蚕都」と呼ばれていた点と、 市民の皆さんと協力して行うプロジェクトである点をかけ、「みなさんとプロジェクト」と称するプロジェクトを考案した。「みなさんとプロジェクト」は、観光客を対象にした宿泊付き体験型ツーリズム、地元の小中学生を対象にしたワークショップ、観光客とすべての市民をターゲットにした上田紬の製作物の販売の３つのプランに分かれている。

① 体験型ツーリズム

第一に、1 日で上田市の魅力を丸ごと体験できるツーリズムプランである。上田市の名産品である野菜や果物の収穫体験をし、廃棄される野菜や果物を染料として活用した上田紬の染色・機織り体験を行った後に、上田市内の旅館に宿泊してもらう。

野菜の収穫体験を行うことで、上田市の農作物に親しみを感じてもらうことができるうえ、廃棄野菜を染料として活用できることは環境にも良い。また、廃棄野菜を染料として活用することのメリットとして、化学染料とは違い、毎回同じ色味の染料ができるわけではないため、世界で１つのオリジナルの色味の上田紬を製作することができる。

ここで、体験型ツーリズムの参考事例として、株式会社南信州観光公社を例に挙げる。長野県飯田市では、2001 年 1 月に飯田市及び周辺 4 村、地元企業・団体の出資による第 3 セクターとして株式会社南信州観光公社が設立された。南信州観光公社は、南信州に住む人々がインストラクターや案内人となり、訪れた人とともに普段の仕事や暮らし・趣味を

[12] 経済産業省 経済産業政策局 地域経済産業グループ 地域新産業戦略室「平成２７年度 地域経済産業活性化対策調査報告書」５頁以下。

一緒に味わったり、地域の自然や歴史をともに楽しんだりといった体験プログラム「ほんもの体験」のコーディネートをしている。こうした地域の人々との交流を通じた体験プログラムは海外からも評価を受け、2017 年度には「南信州農家民泊」が「COOL JAPAN AWARD 2017」を受賞し、1000 人以上の訪日外国人が農家民泊を利用するまでになった。また、体験プログラムの受入地域も飯田市から下伊那郡全域に広がり、現在年間百十を超える学生団体を受け入れている[13]。

この南信州観光公社が行っている「ほんもの体験」と「みなさんとプロジェクト」の相違点は、染色・機織り体験や収穫体験など１つの体験に絞らず、複数の体験を１日でまとめて行うことで効率よく上田市の魅力を体験することができる点にある。

② ワークショップ

第二に、「みなさんとプロジェクト」をワークショップとして上田市の地元小中学生を対象に開催する。内容は体験型ツーリズムと同様に、廃棄される野菜や果物を染料にし、上田紬の染色・機織り体験をおこなう。実際に体験することで上田市の魅力を再確認するきっかけを作り愛着心を持ってもらう。またワークショップを体験した上でポスターを制作してもらい、優秀な作品を実際の広報･啓発活動に使用し、市外の人たちにこの活動を知ってもらう。

参考事例として広島県北広島町で行われているカキツバタの花での染色体験が挙げられる。同町ではこの地域で自生しているカキツバタの花を染色材料として小学生がＴシャツを染色する体験を行っている[14]。その他に長野県飯田市の下久堅小学校では同地区に伝わる「ひさかた和紙」に色を付ける「和紙染ワークショップ」を行っている。児童は粉状の染料から絵の具を作る方法や、型紙を使った染色方法などを学んだ後、自ら考えたデザインで和紙に染色する体験をしている[15]。

以上のように他の自治体でも類似の事例があることから、実現可能性は非常に高いと考えることができる。

③製作物の販売

第三に、廃棄野菜で染色した上田紬を「彩絹（あやか)」と名付け、ブランド化し、温泉旅館や道の駅などでハンカチ､巾着､扇子などの小物や着物を販売することを考えている。私たちは、本年８月、廃棄野菜に含まれる成分から染料を抽出し染めた素材・商品を提供している(株)豊島（本社:名古屋市）にヒアリング調査を行った。それによると、廃棄野菜を使用し染色した商品は、化学染料のみで染色した商品と比べ淡く色が出るのが特徴で、シルク独特の光沢感を活かしたまま染色することができると回答を得られた。また、少量の化学染料を加えることで、色落ちもせず、原材料の色味を活かした製品を作ることがで

---

[13] 南信州観光公社「長野県南部のグリーンツーリズム・エコツーリズム・体験プログラムガイド」(https://www.mstb.jp/)（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）

[14] NHK 広島のニュース「小学生がカキツバタの花で染色体験 北広島町芸北」（https://www3.nhk.or.jp/hiroshima-news/20230530/4000022515.html ）（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）

[15] 飯田経済新聞「飯田・下久堅小１年生児童、「和紙染め」ワークショップ体験」（https://iida.keizai.biz/headline/344/ ）（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）

きる。小物の製作については、上田市内の工房に協力していただき、プロジェクト初期は需要に合わせ、数量限定という形で販売をする。また、「彩絹」で作成した着物を温泉旅館に置いてもらい、宿泊しに来た人たちに着用していただき、実際に触れながら上田紬について知ってもらうことを考えている。さらに、「彩絹」の着物の着用又は小物の使用により、温泉街や商店街など上田市内のお店でお得なサービスが受けられるイベントを開催することも考えている。イベントは「彩絹」の大きなPRにつながるうえ、お店に立ち寄る機会を生み、街全体の活性化にも繋がる。

第2節　政策のメリット

（1）　市民にとってのメリット

第一に、農業の後継者不足の解消が期待できる。近年、上田市の農業従事者の数は大幅に減少しており、約80%が60歳以上の者で占められている[16]。現在は多くの農家で外国人労働者を雇い、労働力不足を補っているが、農業を存続させるには、上田市で農家として生計を立てる人を増やす必要がある。体験型ツーリズムを通して観光客や市民が農業を体験し、その楽しさややりがいなどを知ってもらうことで、農業を新たな就職先として視野に入れ、定住してもらうこともでき、後継者不足解消に繋げることもできると考える。

第二に、伝統産業の復興によるシビックプライドの醸成が期待できる。シビックプライドとは、「都市に対する市民の誇り」である。市民の誇りといっても、単なる郷土愛ではなく、特定の地域を愛し、「ここをより良い場所にするために自分自身が関わっている」という、当事者意識に基づく自負心を意味している。つまり、その地域に貢献したいと思う心意気であるため、地域の人以外もシビックプライドを育むことができると考える。シビックプライドを持つ住民が増えることで、地域の活性化や観光客を迎え入れる風土の醸成などにつながり、市の魅力をより発信することができる。そして、上田市以外で生まれ育った方も、「みなさんとプロジェクト」に参加することでシビックプライドを育むことができ、伝統産業の復興、人口減少の抑制ひいては人口増加が期待できると考える。

第三に、廃棄野菜の有効活用ができる。前述した通り、「みなさんとプロジェクト」では、上田市の名産品であるレタスやリンゴ、ブドウなどの中から廃棄されてしまう農産物を染料にし、染色体験を実施する。レタスでは、供給過剰により市場における卸売価格の著しい下落が見込まれる場合、全国農業協同組合連合会から一定量を廃棄するよう協力を求められ、1軒の農家だけで年間1000箱以上を廃棄してしまった例がある。これらの本来廃棄される予定であった様々な農産物を染色に使用することにより、食品ロスの減少に繋げることができる。また、廃棄野菜を食品として流通させるわけではないため、食用の野菜が売れなくなるといった副作用を招くこともない。

（2）地域にとってのメリット

第一に、地域外の人との交流が増加することである。地域外の人が、「みなさんとプロジェクト」に参加して、上田市の魅力を感じ、関心が高まることで、定住に繋げることができる。また、上田市の住民はこのプロジェクトを通して、地域の魅力について再発見することにより、前述したシビックプライドを育んでもらうことで、地域全体で観光客誘致に

[16] 上田市政策企画部政策企画課・前掲（注）9　86頁参照。

取り組むことができる。それにより、人口流出を防ぐだけでなく、伝統産業の復興にもつながる。

第二に、地域の活動が SDGs への貢献にもつながることである。2015 年の国連サミットにおいて SDGs（持続可能な開発目標）が合意されて以来、日本を含む世界各国は、この目標達成に取り組んでいる。上田市が「みなさんとプロジェクト」に取り組むことで、17 個ある目標のうち目標 12 の「つくる責任、つかう責任」を達成することに資すると考える。「つくる責任、つかう責任」の項目は、持続可能な消費と生産のパターンを確保することを指している。私たちの計画では、廃棄野菜や果物を染料として使用することで、食品ロスの減少を目指しているため、持続的な環境負荷の減少を見込むことができる。また、交流の増加は、目標 11 の「住み続けられるまちづくり」を達成することに資すると考える。「住み続けられるまちづくり」は、都市と人間の居住地を包括的、安全、強靭かつ持続可能にすることを指している。私たちの計画では、地域への関心を高めてもらうことを目指しているため、定住人口の増加を見込むことができる。

第三に、名産品の知名度の向上が期待できることである。上田市は、高い晴天率と少雨、多様な地形や土壌、高い標高によりもたらされる昼夜の寒暖差など、農作物の生産に大変適しており、主にレタスやダイコン、リンゴといった野菜や果物などが作られている[17]。そこで、豊富にある市の農作物と上田紬を活用した新しい特産品をつくり、販売することで話題性を創出することができる。それにより、市の名産品である野菜や果物、上田紬に興味を持つ人が増え、知名度の向上に繋がる。

第四に、上田紬の「ブランディング」の向上ができることである。「ブランディング」とは、「ブランド」を消費者に認知させ、ニーズを知り、強みやポジションを明確にする活動であり、「～といえば～である」といった意識付けにも繋がる。「みなさんとプロジェクト」を通じて、体験者に上田紬の強み、ニーズを知ってもらうことで「ブランディング」の向上が見込めるのではないかと考える。また、前述のとおりブランド化した「彩絹」の評判が口コミで広がることで、「紬といえば上田紬」という認識を広められるのではないかと考える。

第五に、将来的な養蚕業復興の可能性を生み出すことである。近年では、上田市内にほとんど養蚕農家はなくなり、紬生産に使われる絹糸の多くを中国やブラジルなど海外からの輸入に頼っている[18]。そこで、「みなさんとプロジェクト」を行うことにより、養蚕・製糸から製品化まで一貫して上田市内で行う産業の循環が生まれ、紬をより多くの人に知ってもらう機会になる。これにより、地域ブランディングや 6 次産業化による地域活性化に繋げることができる。また輸入品に頼り、供給が安定しないという課題を解決することが期待できる。この試みは、養蚕業の再評価へと発展する可能性も秘めており、持続可能なまちづくりにつながると考える。

---

[17] 上田市ホームページ「信州上田観光情報」
（https://www.city.ueda.nagano.jp/site/kankojoho/5219.html）（閲覧日 2023 年 8 月 21 日）

[18] （株）ハムラ「上田紬とは」
（http://ueda-tsumugi.com/koubou/koiwai#koiwai_pv）（閲覧日 2023 年 8 月 8 日）

第３節　事業を進めていく上での課題

この事業を進めていく上での課題は大きく分けて２つある。

第一に、どのくらいの人が体験型ツーリズムに参加してくれるかということである。成功事例として、石川県小松市で行われた「“クラフトの掛け算”キュレーションを愉しむ北陸伝統文化深耕ツアー確立プロジェクト」を挙げる。ここでは、小松市から福井県福井市に至る地域における文化資源(伝統工芸、食、酒)を情報の選別によりマッチングさせ、地域伝統文化産業の若手職人の指導の下、器などのものづくりを体験できるツアーを実施した。さらに、完成した食器を使って食事をする機会も提供することで職人とツアー利用者の相互理解を深めることとなった[19]。

私たちが提案する「みなさんとプロジェクト」も、小松市のプロジェクトと類似しており、上田紬の染色・機織り体験を行った後、上田市の旅館に宿泊してもらうことで、上田市の魅力を知ってもらうことを目的としている。このように体験型ツーリズムでは、地域の自然と文化、伝統、歴史等を掛け合わせることで新たな体験価値を生み出すことができる。実際に五感で体感することは、見ること以上に文化の本質を理解することができるため、このような体験型ツーリズムは人気がある。小松市のような実例があるため、「みなさんとプロジェクト」も安定した集客が見込めるのではないかと考える。

また、視覚に訴えかけることのできる写真系 SNS、ニュース性や即時性を求められ情報発信ができるテキスト系 SNS、より詳しい説明や理解度を高めることができる動画系 SNS など各 SNS の特色を生かし、プロジェクトの知名度向上に取り組むことで多くの集客を目指す。

第二に、協力してくれる事業者がいるかということである。まず、この事業に理解を示す事業者に対して、資金援助をすることで参加を促す。実際に、長野県では伝統的工芸品産業の後継者育成に取り組む事業者に対して助成金を交付している[20]。この助成金は、伝統的工芸品の後継者確保や需要喚起等の支援策、伝統的工芸品の技術を活用した新商品の開発支援などに実際に使用されている。「みなさんとプロジェクト」でも未来を担う若い世代に伝統工芸を伝えるためという目的が一致しており、この制度の活用が見込める。そして実際に県の助成金を使用する事業者が存在することから、協力してくれる事業者も見込めると考える。これに加えて、上田市が設けている信州上田ブランドのブランディングが図られる取組を支援する補助金制度を活用すれば、さらに効果が期待できる[21]。

また、「みなさんとプロジェクト」による事業者のメリットは資金面だけではない。若い

---

[19]文化庁「『文化資源の高付加価値化』課題解決への事例集」（https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/bunkakanko/pdf/93851301_01.pdf）（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）

[20] 長野県「伝統的工芸品産業の後継者育成に取り組む事業者に助成金を交付します」（https://www.pref.nagano.lg.jp/mono/happyou/20230710press.html ）（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）

[21] 上田市ホームページ「ブランディング支援事業補助金」（https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/shoko/4701.html）（閲覧日 2023 年 9 月 9 日）

世代にワークショップを提供することを前述したようなSNSに載せることで、興味を持ってくれる方が増え、商品の売り上げ向上にも繋がると考える。そして、後継者不足に悩まされている伝統産業を、未来を担う子供たちに知ってもらうことにも繋がり、後継者不足解消に役立つのではないかと考える。このようなメリットをPRすることで、協力してくれる事業者がさらに現れることが見込まれる。

第5章　おわりに

今回の提案は、人口減少と伝統産業の衰退という問題をすぐに解決できるような効果が出るものではないが、長期的にみれば「みなさんとプロジェクト」を通じて上田市の交流人口を増やし、蚕都復興を期待できるものである。

上田紬のような伝統工芸品は、時代が変わっても受け継ぎ、守られてきたものであり、その地域の歴史や文化を学ぶことができる貴重な遺産である。市民に、地域への誇りや愛着を持って生活してもらうため、上田紬を振興していく必要があると考える。

現在は海外産絹糸の台頭により、純国産の絹糸から上田紬はほとんど生産されていない。蚕糸業全てを上田市で行うことで新たな雇用を創出し、労働力人口を増加させることもできると考える。また、「みなさんとプロジェクト」を通じて、旅館、農家、工房といった分野は違っても地域貢献や上田市を活性化させたいという同じ志を持つ市民を繋げることができる。その繋がりからまた新しい取り組みやプロジェクトが生まれ、上田市のさらなる発展に繋がると考える。

〈参考文献〉

飯田経済新聞「飯田・下久堅小１年生児童、「和紙染め」ワークショップ体験」
（https://iida.keizai.biz/headline/344/ ）（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）
上田市政策企画部広報シティプロモーション課「令和 2 年上田市の人口（令和 2 年国勢調査結果報告書)」
上田市政策企画部政策企画課「第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画（令和３年度～７年度)」
上田市ホームページ「信州上田観光情報」
（https://www.city.ueda.nagano.jp/site/kankojoho/5219.html）（閲覧日 2023 年 8 月 21 日）
上田市ホームページ「ブランディング支援事業補助金」
（https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/shoko/4701.html）（閲覧日 2023 年 9 月 10 日）
NHK 広島のニュース「小学生がカキツバタの花で染色体験 北広島町芸北」
（https://www3.nhk.or.jp/hiroshima-news/20230530/4000022515.html)（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）
経済産業省「経済産業省説明資料」（文化審議会文化財分科会企画調査会（第 9 回）2022 年 7 月 27 日提出資料）
経済産業省地域経済産業グループ経済産業政策局地域新産業戦略室「平成２７年度 地域経済産業活性化対策調査報告書」
信州上田観光協会「上田紬の織物体験！ 小岩井紬工房で、400 年の文化に触れる」
（https://ueda-kanko.or.jp/blog/special_tsumugi/）（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）
総務省「伝統工芸の地域資源としての活用に関する実態調査結果報告書」（2022 年 6 月）
長野県「観光地利用者数統計調査結果」
（https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/toukei/riyousya.html）（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）
長野県「伝統的工芸品産業の後継者育成に取り組む事業者に助成金を交付します」
（https://www.pref.nagano.lg.jp/mono/happyou/20230710press.html ）（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）
（一社）日本工芸産地協会「地域サプライチェーンと小規模事業者の関係 ～工芸業界の場合～」（中小企業政策審議会小規模企業基本政策小委員会（第 14 回）2018 年 10 月 12 日提出資料）
（株）ハムラ「上田紬とは」
（http://ueda-tsumugi.com/koubou/koiwai#koiwai_pv）（閲覧日 2023 年 8 月 8 日）
文化庁「『文化資源の高付加価値化』課題解決への事例集」
（ https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/bunkakanko/pdf/93695702_01.pdf ）
（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）
南信州観光公社「長野県南部のグリーンツーリズム・エコツーリズム・体験プログラムガ

イド」　(https://www.mstb.jp/)（閲覧日 2023 年 9 月 3 日）